



# ピースボート福島子どもプロジェクト 2017夏 活動の記録

NGOピースボート ✕ ピースボート災害ボランティアセンター ✕ 南相馬こどものつばさ

特別協力:

LUSH Fresh Handmade Cosmetics 『FunD』

Destination Asia Japan Branch

## 福島子どもプロジェクトとは

2011年の震災後、NGOピースポートと一般社団法人ピースポート災害ボランティアセンター(PBV)が、国際交流の体験を通して子どもたちに“夢と健康”を届けたいと、「福島子どもプロジェクト」を立ち上げ、実施してきました。これまでに「夏休みアジアクルーズ」(2011年7~8月)、「夏休み 福島×ベネズエラ音楽交流プログラム」(2012年7~8月)、「2013春 in オーストラリア」(2013年3月)、「2014春・異文化を体験するアジア国際交流の旅」(2014年3月)、「2015春・海でつながるアジア自然と歴史を学ぶ旅」、「2016夏・東アジア国際交流の船旅」(2016年7~8月)を行いました。今までに参加した子どもは100名を超えます。子どもたちは、放射能による制約のない環境下で、のびのびと過ごし、洋上や訪れる寄港地での国際交流を通じて、自分たちの夢や可能性を大きく広げる様子が伺えました。

## プロジェクト呼びかけ人

加藤登紀子 (歌手)

鎌田實 (諏訪中央病院名誉院長)

香山リカ (精神科医)

田中優 (環境活動家)

桜井勝延・前南相馬市長

応援のメッセージ

(前年度のプロジェクト開始時に以下メッセージをいただきました)



ピースポートの皆様には、南相馬市を継続的にご支援いただき心より感謝申し上げます。本市の中学生がこのプロジェクトに参加し、様々な異文化を体験することは、子どもたちの成長に大きく寄与するものと期待しております。

## パートナー団体

当プロジェクトは、2011年の初回からずっと、「南相馬こどものつばさ」とのパートナーシップにより実施しています。同会が、ピースポートとの綿密な協議のもと、子どもたちの選考と送り出し、学校との調整、引率者の派遣を行っております。

### ■特定非営利活動法人 南相馬こどものつばさ

放射能の影響により、戸外での活動制限が続いた子どもたちを心身ともに解放したいという願いから、2011年6月に南相馬市に発足。市内小中学校PTA連絡協議会のメンバーと県外受け入れ団体が協力し、学校の長期休暇に子どもたちを保養プログラムに送り出す活動を続けている。

<http://www.kodomonotsubasa.com/>



Type to enter a caption.

## 福島子どもプロジェクト2017夏:南相馬から世界へ ～海でつながるロシア・韓国・日本～

今回参加した福島県南相馬市からの中高生11名は、「思い切り遊び、思い切り学び、平和を作る  
い手の1人になってもらいたい」というコンセプトのもと、PEACE&GREEN BOAT2017に参加し、多  
くの異文化交流を経験しました。船内では韓国の学生との交流やソーラン節の練習と発表を通し  
て、クルーズ生活を満喫したり、ロシアや韓国、日本国内の寄港地で見聞を広めたり、充実した12  
日間を過ごしました。

### ■PEACE&GREEN BOATとは

PEACE&GREEN BOATは、「平和で持続可能なアジアの未来」  
を目指して、NGOピースボートと韓国のNPO「環境財団」が共  
同でコーディネートする船旅として、2005年から始まった企画  
です。日本と韓国からそれぞれほぼ同数の参加者がひとつの船  
に乗り込み、アジア各国を巡りながら、寄港地での交流プログラ  
ムや船内生活をともに体験します。



### 2017年夏プログラム・基本コンセプト

- 保養・交流: 洋上や寄港地ので、大自然及び多様な町や人と出会い、思い切り体を動かしたり出  
会いを楽しんだりする。特に船内では韓国人学生、在日ブラジル人中学生と知り合う。
- 人材育成: 様々な背景の人と出会い、幅広い視野と将来につながる可能性を見つける
- 国際理解: 外国語を介した会話や、言葉ではないコミュニケーションを通して、国を超えた人と  
人の共通点や共有できる空間・興味を体感する。

### 参加者紹介

#### ■参加生徒 福島県南相馬市の中高生 11 名

熊耳多恵さん(原町第三中3年)	高橋勇心さん(向陽中3年)	佐瀬舞鈴さん(鹿島中2年)
大塚蓮華さん(鹿島中2年)	山崎達之さん(石神中2年)	岡夏輝さん(石神中2年)
古内青空さん(原町第二中2年)	井戸川穂花さん(小高中1年)	岡瑞嬉さん(石神中1年)
佐藤絵さん(原町高等学校2年)	齋藤彩優さん(小高産業技術高校2年)	

#### ■スタッフ(南相馬)

内田雅人(引率・南相馬こどものつばさ)

#### ■スタッフ(ピースボート)

沼田夏奈(引率、記録)

川崎哲、市塚藍子(コーディネーター)

## プログラム行程

### ■事前準備

- 参加者・保護者説明会 2017年6月23日(金)  
南相馬市・かしま交流センターにて
- 事前研修 2017年7月8日(土)、7月22日(土)  
南相馬市・万葉ふれあいセンターにて



### ■プログラム実施

2017年7月27日(木)～8月7日(月)/ 計12日間

日付	活動場所	活動内容
7/27(木)	南相馬 神戸	南相馬出発、バスにて仙台空港へ 神戸到着 ピースボート (オーシャンドリーム号) に乗船
7/28(金)	洋上 関門海峡通過	3言語での名札作りなどのアクティビティに参加。 本州と九州を隔てる関門海峡を通過。
7/29(土)	麗水 (韓国)	現地の中学校の先生の案内で歴史探訪。 韓国からの参加者が乗船して行われた出航式に参加。
7/30(日)	洋上	「船内家族」などのアクティビティに参加。 韓国の高校生と日韓の文化交流を実施。
7/31(月)	ウラジオストック (ロシア)	地元ボーイスカウトとの交流プログラムに参加。 工芸品作りやダンスをしてロシアの子どもたちと触れ合う。
8/1(火)	洋上	相馬の野馬追についてクイズ形式での紹介企画を実施。 韓国の高校生と環境問題を学びエコバッグ作り。
8/2(水)	函館 (北海道)	函館山ハイキングと五稜郭見学で、函館の街を満喫。
8/3(木)	洋上	操舵室見学などのアクティビティに参加。 夜は洋上夏祭りで韓国の高校生と共にソーラン節を発表。
8/4(金)	境港 (鳥取県)	島根県にある出雲大社を見学。 夜は船内で、韓国の高校生の卒業式に参加し別れを惜しむ。
8/5(土)	釜山 (韓国)	台風の影響で滞在時間が短くなるなか、国際市場と歴史資料館を訪れ、釜山の賑わいと歴史を学ぶ。
8/6(日)	洋上	瀬戸内海を航行。船旅を振り返りのトークショーに参加。 ミニ卒業式を実施。
8/7(月)	神戸 南相馬	台風に備えて神戸から新幹線にて福島へ。 バスにて南相馬へ帰着。

※ PEACE&GREEN BOAT2017 (2017年7月27日～8月7日/神戸発着12日間)の旅程については、こちらを参照: <http://www.pbcrui.se/jp/peacegreen/2017/>

## 旅の記録～出会い、学び、発信へ～

7月27日(木)【出発・神戸】

朝6時半に南相馬を出発し、七夕飾りが鮮やかな仙台空港から空路で神戸へ。空港から船が待つ港へはモノレールに乗って移動しました。

ピースボート・オーシャンドリーム号に乗り込んだのは午後。船内の案内を受け、避難訓練に参加し、船出に向けて不安と期待が高まります。

18時の出航式では、2回目の参加となる山崎達之くんが記念の挨拶をしました。



7月28日(金)【洋上】

朝目が覚めると、そこは海の上。いよいよ本格的な船旅の始まりです。ホームルームでは乗り合わせた中高生たちと顔合わせをしました。

英語や韓国語の会話を習ったり、プールやジャグジーを楽しんだりしていたら、船が関門海峡を通過!本州の西の端こと九州の間を通りました。夕方のホームルームでは翌日の予習をしました。



7月29日(土)【麗水(ヨス)】

最初の寄港地、韓国の麗水。伝統音楽と舞踊での歓迎に、外国に着いた実感が湧き始めます。麗水には日本にも関連する歴史的な場所があり、地元の中学校の先生に案内してもらいました。韓国語と日本語の通訳も印象的でした。

船に戻ると、韓国からの乗船者も合流しており約1000名の旅の仲間が集まって出航を祝いました。夕方には、海に囲まれたスポーツデッキでソーラン節の練習を始めました。



7月30日(日)【洋上】

ホームルーム、韓国語レッスン、卓球広場、ソーラン節の練習などを楽しくこなし、船内の疑似家族にも参加して異世代交流もしました。

夜には少しドレスアップして、船長と記念写真を撮り、ウェルカムパーティで船内バンドの演奏を聞いて、贅沢な夕食をいただきました。



### 7月31日(月)【ウラジオストック】

ロシアでは、地元ボーイスカウトのサマーキャンプに参加。スポーツや手芸品作りをしてロシアの子どもたちと交流し、共に食卓も囲みました。ロシアのダンスを見せてもらったので、お返しにソーラン節を披露しました。

夜には、翌日の発表のために通訳スタッフとの打ち合わせも行いました。



### 8月1日(火)【洋上】

船上での生活にも慣れて来て、ソーラン節の練習にも熱が入ります。そしてついに相馬の野馬追について発表をする機会です。

夕方には韓国的高校生とエコバッグ作り。絶滅危惧動物について学びながら交流しました。

夜には韓国の歌手イ・ハンチョルさんによるコンサートで盛り上がりました。



### 8月2日(水)【函館】

快晴の函館に到着。ソーラン節の練習で全身筋肉痛だけれど、みんなで函館山に登りました。たどり着いた頂上で浴びた風がとても気持ちよかったです。

自由時間にはお土産を選んだり、アイスクリームを食べて涼んだりしました。

五稜郭タワーに登り、広大な景色と五稜郭公園のキレイな星型を見ることができました。



### 8月3日(木)【洋上】

普段は入ることのできない操舵室を特別に見学させていただきました。様々な機械がたくさんあり、使い方も説明してもらいました。

夜は洋上夏祭り。韓国的高校生達と共に一生懸命練習したソーラン節を発表しました。浴衣や甚兵衛を着て、船内の皆さんと一緒に話をしたり、かき氷を食べたりしてお祭りを楽しみました。



### 8月4日(金)【境港】

境港へ寄港し、バスに乗って出雲大社を訪れました。ガイドさんから神社について学び、参拝をしました。

船に戻り、韓国高校生の卒業式を行いました。岡夏樹くんが代表して、みんなで用意したプレゼントを渡しました。日韓合同の最後の夜、一緒にご飯を食べて最後の時間を過ごしました。



### 8月5日(土)【釜山】

台風の影響で急ぎ足になってしまった釜山。

昼食を取った食堂で、ご飯の食べ方の違いも教えてもらいました。お店の人達が親切にしてくれたのも印象的でした。

国際市場では、可愛い民芸品が所狭しと並んでいました。最後の近代歴史資料館では歴史について学び、日本との関わりを知ることができました。



### 8月6日(日)【洋上】

ついに洋上最後の日。釜山で多くの方が下船し、船内も少し寂しい印象です。

航路が変更になったため、美しい瀬戸内海の島々を見ることができました。

ブラジルユースが司会をするトークショーに出演し、今回の船旅を振り返りました。短い間でたくさんの経験をしたことを改めて実感することができました。



### 8月7日(月)【帰着・神戸】

朝方に神戸港へ到着。台風を避けるように、足早に新幹線へと乗り込みます。12日間を楽しみ切ったように、車内ではぐっすり眠る姿もありました。

東京駅を經由して、無事に福島へと帰着しました。



## 主な成果～不安を越えて見つける希望と未来～

- 多様な人々との交流：船内や寄港地で、幅広い国や年代、職業の人々と出会い知り合いました。
- 知識・見聞の広がり：出発前には「ロシアは寒い、韓国といえばキムチ」といったイメージだけ持ち合わせていた子どもたちが、現地の人と出会い食事を楽しみ、自身の五感で見聞を広めました。
- やる気や希望の創生：出会った人ともっとコミュニケーションをとりたいという欲求や、新しい体験や楽しさの発見によって、言葉を学ぶ意欲や、新しいことにチャレンジするやる気生まれました。

## 子どもたちの声(感想文より抜粋)

.....  
 この船旅で学んだことはたくさんあります。私は、色んな言語をつかひこなせるようになりたいと思いました。韓国人との交流の際、話してる言葉がわからなかった。ロシア語もあまりわからなかった。通訳の人をみて、私もたくさんの言語を話せるようになりたいと思いました。  
 .....

.....  
 この船にのり初めての体験をたくさんしました。何も知らなかった人とも友だちになれたし仲良くなったスタッフからはいろんな話を聞くことができました。この経験を生かして今迷ってる進路を決めたり、将来に役立てたいです。  
 .....

.....  
 ちいさい子どもたちとジャグジーやプールに入っ  
 て仲良くなったり、朝ご飯でお年寄りの方たちと話して交流したり、老若男女問わず、いろんな人と交流できたと思う。地球一周にも乗ってみたいですよ。  
 .....

.....  
 「一番楽しかったことはなにか」と聞かれても、楽しかったことが多すぎて選べません(笑)。韓国のヨスや釜山、ロシアのウラジオストックに行ったこともすごく楽しかったし、船内でも、たくさんの行事に参加して、作ったり学んだりなどしておもしろかったです。福島から来て感動することがたくさんありました。南相馬についても、色んな人たちに言えてよかった！  
 .....

.....  
 初日やその前は不安も期待も五分五分だったけど、来てみてからの12日間、とても楽しい事ばかりで、ブラジルユースや、一緒に来ているみんなと、毎日をとても楽しく過ごす事ができました。韓国の友だちもつくる事ができました。韓国やロシアなどの海外の寄港地では、現地の人たちが優しく出迎えてくれて、心おきなく楽しむ事ができました。韓国人以外にも、他の国の人々が乗船していて、その人達と言葉足らずになりながらも話す事ができたのも最高の思い出です。  
 .....

## 同行スタッフの声

短期間での子ども達の変化が印象的です。初めて顔を合わせた時は、言葉も少なく、引っ込み思案な印象でした。期待よりも不安の方が大きかったことでしょう。実際に乗船して、少しずつ新たなチャレンジを積み重ね、言葉が通じない中でもコミュニケーションを取れることを体感していました。より遅く、ひとつ大きくなった子供達の姿から、私も多くを学ぶことができました。(沼田夏奈)

## 保護者の声(参加した後の子どもの様子をお聞きしました)



様々な国へ訪れ、人と交流し、充実した毎日だった、ということ、韓国の歴史や、日本との関係を良く学んできたと思いました。韓国の子どもさんと仲良くなれ、同世代の外国事情も沢山聞けたようで、世界は広くて文化ってすごいと言っておりました。地元を知るのも大切、その上で世界を実際にじぶんで感じてお互いに認め合うことが大切、最近のニュースを見てると不安さえ感じますが、体験してきたことはこれから生きることも世代にとって必要なことと改めて感じました。

みんなで発表したり、なにかを作ったり、食べたり話したり、そこで得たものはそうやって自分の自信になり、糧となっていくんだなあ、と、しみじみ感じました。



同級生や同じ学校の参加者がいないとの事で馴染めるか私だけが不安に思っておりましたが 本人は一人での参加の不安よりも楽しみの方が大きかったみたいで(笑)。帰ってきてからは異文化交流よりも違う学校の友達との交流の方が新鮮だったらしく話が止まりませんでした。地元では友人関係も狭く もめ事に関しても逃げ道がない環境は不安でしたがこういった他校との交流他人との関わり方が出来る事は恵まれていると思います。



すこし自信をつけて帰ってきたのか、覚えてたの韓国語や、ロシアのお金の数え方など私が知らない事を沢山教えてくれました。船内プログラムも沢山あり、いろいろな出会い、経験をすることができ、一回り大きくなって帰宅したように感じました。私はこの旅が、子供達の価値観や、将来の人生をも、大きく左右するのではないかと、とても期待しています。世界に羽ばたきたいとそんな大きな心を持ってくれたら嬉しいです。



東日本大震災の津波で自宅が全壊し、海の怖さなど震災以来海に近づく事さえなかったのも、話を聞いてから出発まで、不安で「大丈夫かな…」と親子で話していました。送り出す親としても帰ってくるまで、元気な顔を見るまで、心配でしたが、旅の途中経過をFacebookで拝見し、元気な顔が見れて安心したり、何か発表している姿を見て人前で話す事ができたんだなと感心したり。

帰宅後、知らない子ど同室だったこと。関西の子と友達になれた事、小さな子供にプレゼントを貰った事、自分が乗った船は決して簡単に乗れる船ではないんだと肌で感じてきた事、次は自分が何かあった時にしてあげる番なんだと感じて来たようです。

## みなさまのご支援ありがとうございました

今回のプログラムも、多くの方々のあたたかいご協力ご支援のもと実現することができました。心より感謝申し上げます。

●助成金: LUSH Fresh Handmade Cosmetics

●ご支援: Destination Asia

**LUSH** FRESH  
HANDMADE  
COSMETICS



DESTINATION ASIA  
DESTINATION MANAGEMENT FOR ASIA'S TRAVEL CONNOISSEURS

●ご寄付 個人の方からもご寄付を頂きました。心より感謝申し上げます。  
※個人情報の観点から寄付者お一人お一人のご紹介は控えさせていただきます。

## おわりに

ピースボートおよびピースボート災害ボランティアセンターでは、今後も福島子どもたちへの支援を続けていきます。今後のプロジェクトの継続と発展のために、引き続き、ご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

<福島子どもプロジェクトへの募金>

郵便振替 00120-9-488841 (下6桁は右ツメ)  
加入者名 社)ピースボート災害ボランティアセンター  
※ 通信欄に「フクシマ」とご記入ください

銀行振込 ゆうちょ銀行 ゼロイチキュー店(019店) 当座 0488841  
口座名 社)ピースボート災害ボランティアセンター  
※ 振込依頼人の前に「フクシマ」とお書きください  
⇒ 例)「フクシマ ヤマダタロウ」

クレジットカード <http://pbv.or.jp/donate/fukushima.html> をご覧ください

福島子どもプロジェクト 2017夏・活動の記録

【発行】NGOピースボート / 一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンター

【編集】川崎哲、市塚藍子、合田茂広

【写真】沼田夏奈、ピースボート

【リンク】ピースボート福島子どもプロジェクト [http://www.peaceboat.org/projects/fukushima\\_youth/](http://www.peaceboat.org/projects/fukushima_youth/)

ふくしま支援ブログ [http://pbv.or.jp/blog\\_fukushima/](http://pbv.or.jp/blog_fukushima/)

この刊行物に関するお問い合わせはピースボート事務局までお願いします。

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-13-1-B1

TEL: 03-3363-7561 FAX: 03-3363-7562 E-MAIL: [info@peaceboat.gr.jp](mailto:info@peaceboat.gr.jp)